

R6年度
浜田養護学校
研究の取組

『浜田養護学校グランドデザイン』の実現に向けて

『浜田養護学校で育てたい資質・能力』

『学部に応じた4つの交流の仕方』

『ESDの…重視する7つの資質・能力』

👉 …を踏まえて 私たちが取り組んでいること

地域と協働したESDの学習に
「主体的・対話的で深い学び」方で取り組むことで
『浜田養護学校で育てたい資質・能力』を育成する

研究主題

R5年度より 2カ年計画

「地域とともに
児童生徒の深い学びを支える
授業づくり」

～ ESDを通じて
児童生徒の思考を深める手立てを考える ～

研究の目的

児童生徒が主体的に地域活動に関わり、ESDを通じて課題意識をもち、解決に向けて考えていこうとする力を育むための有効な手立てを、授業づくりを通して検証する。

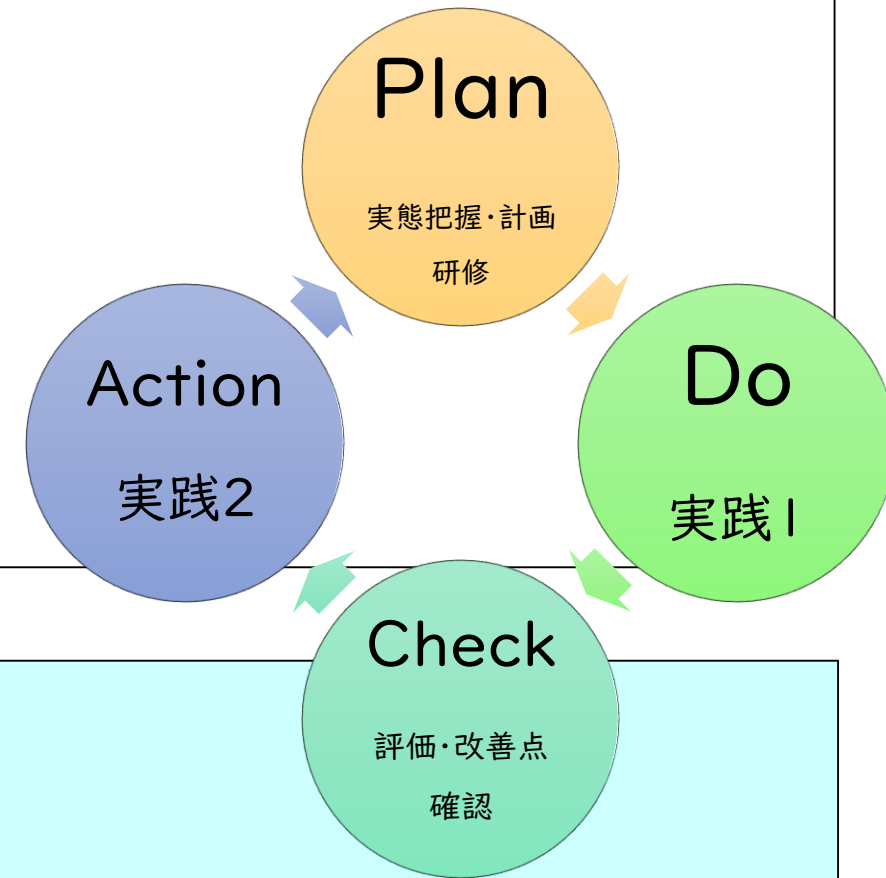
研究仮説

SDG`sに関わる活動の指導案を作成する過程の中で、期待する児童生徒の気づきや思考
を見える化し、それを引き出すための手立てを
工夫することで、児童生徒が課題意識をもち、
解決に向けて思考を深める姿を育むことができるであろう。

研究計画

【1年次】

- ① 地域連携協働学習年間計画の確認
- ② 児童生徒の思考を引き出す活動の検討
- ③ 期待する 児童生徒の思考する姿の検討
- ④ 児童生徒の深い学びを支える手だての検討
- ⑤ 計画・実践・評価



【2年次】

1年目の取組みを深める。

学んだ知識や技能を今の学びに関連付けて活用しようとする、「より質の高い深い学び」を引き出す手立てを明らかにする。

R5年度 1年次 成果と課題

取組みについて意識すること～

地域と協働したESDの学習に
「主体的・対話的で深い学び」方で取組むことで…

仮説～

期待する児童生徒の気づきや思考が見える化し
それを引き出すための手立てを工夫することで…

取組みの成果

手立て

引き出せた姿

社会に開かれた
教育課程

思考する必然性のある活動

思考の
見える化

思考の土台となる知識・技能を教える場面

思考のプロセスが見える化して（視覚的に）示す

学習
プロセス

友だちの考えが見える化して共有できるようにする

計画（企画）→実行→改善→再度実行
深い学びにつながるPDCAサイクルの明確化

思考するためのツールの工夫
学習過程に沿った 児童生徒の実態に合った発問

地域との活動に興味関心の広がり・期待感

他者との思考の共有による深い学び

新たな学習への意欲 活動への目的意思

最後まで取組む責任感

課題

取組みについて

- 地域の人・もの・ことと関わる学習活動の中での課題の設定（思考をする場面の切り出し）
- 児童生徒が思考を深めていく個々の手立て
- 思考をつなげる手立て

教員の意識として

- 活動ありきになっていなかったか
- 個々の児童生徒の思考を想定し、思考を深める手立てをグループの教員間で検討できたか
- 発問の妥当性
子どもに伝わる言葉になっているか

課題

教員の意識として

1. 活動ありきになっていなかったか
2. 個々の児童生徒の思考の動きを想定し、思考を深めていける手立てをグループの教員間で検討できたか
3. 発問の妥当性
子どもに伝わる言葉になっているか

1,2について

昨年度の取組から地域連携センターを中心に地域連携プロジェクトで検討され、改善されたものがR6年度に示された。これにより活動が整理された点も多い。

学部研で、思考を深める手立てについての検討を主に重ねていきたい。

3について

「ファシリテーション」「個別最適な学び」「協働的な学び」の視点をもって、授業づくりの際に確認をしていきたい。

思考を深める手立て

思考する必然性のある活動

知識・技能を教える場面

思考するための
ツールの工夫

思考の過程の
見える化と共有

視覚的支援

伝わる発問
言葉かけ

思考する時間
の設定

深い学びにつながる
PDCAサイクル

グルーピング
ペアワーク

繰り返して見通し

選択肢の提示

待つ・任せる

振り返りの手立て

...などなど、あると思いますが

児童生徒、個々に応じた手立て、思考をほり下げる手立ては何か、学部研、舎研会で検討しながら授業をつくっていく

昨年度の成果と課題より R6年度の取組みについて

研究主題と研究の目的は継続

研究主題

R5年度より 2カ年計画

「地域とともに
児童生徒の深い学びを支える
授業づくり」

～ ESDを通じて
児童生徒の思考を深める手立てを考える ～

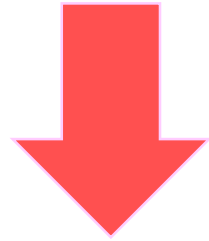
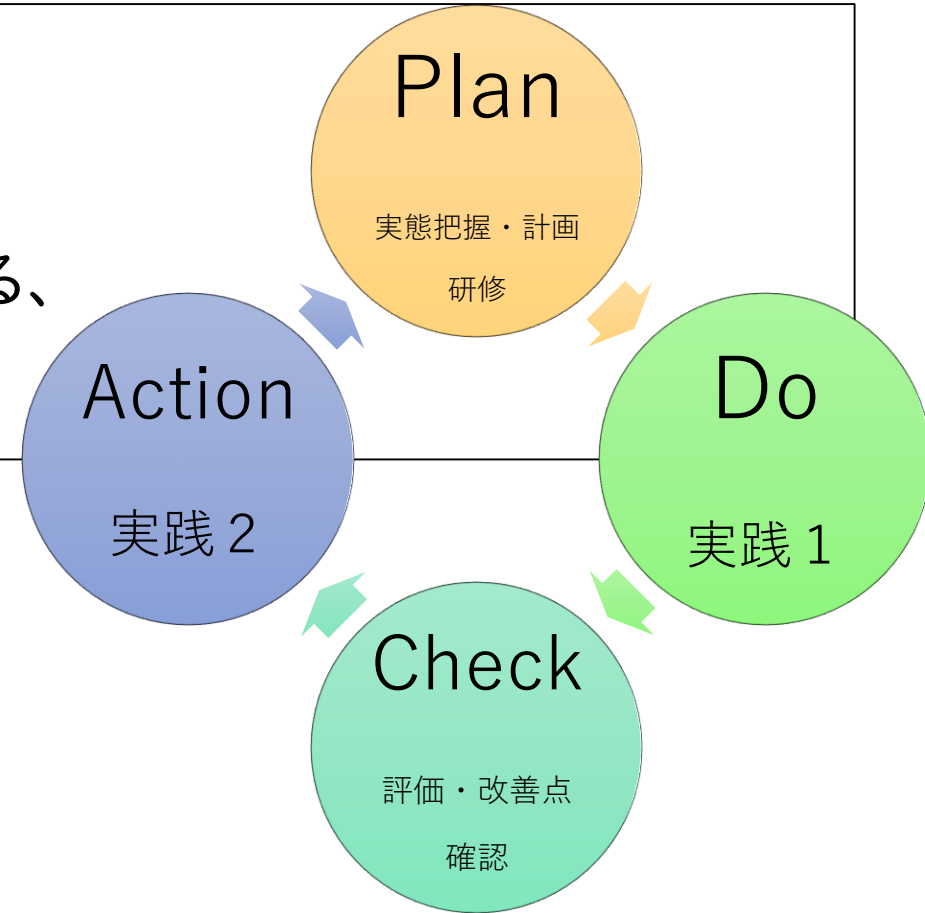
研究の目的

児童生徒が主体的に地域活動に関わり、ESDを通じて課題意識をもち、解決に向けて思考して
いこうとする力を育むための有効な手立てを、授
業づくりを通して検証する。

【2年次】

1年目の取組みを深める。

学んだ知識や技能を今の学びに関連付けて活用しようとする、
「より質の高い深い学び」を引き出す手立てを明らかにする。



既習の学習内容や経験をつなげ、
考え続ける姿を引き出す手立てを整理する。

研究仮説

SDG`sに関わる活動の指導案を作成する過程の中で、期待する児童生徒の気づきや思考
を見える化し、それを引き出すための手立てを
工夫することで、児童生徒が課題意識をもち、
解決に向けて思考を深める姿を育むことができるであろう。

研究仮説～ SDG`sに関わる活動の指導案を作成する・・・

地域とかかわる学習活動シート・連携シートで整理しながら指導案を作成する。

地域とかかわる学習活動シート【(単元・総合・作業・各教科等 ())】	
学習計画 【単元・題材名】 防災について学ぼう ～災害への備えと地域の取組について～ 【単元の主題】 SDGs 11 住み続けられる街づくりを 【単元・題材の目標】 ・学校や地域の災害への備えや被害をなくすための道具、設備、取組について知る。 ・地域の安全を守るための人々の協力や関係機関との連携等について知る。 ・学びを通して災害に対して備えたり、安全に避難することの大切さに気づき、家庭や学校で自分にできることに取り組もうとする意欲を高める。	【ESDのカテゴリー】 ・自然と共生する ・ <u>みんなが住みやすい町にしよう</u> ・持続可能な社会づくりの模範概念 (問題と向き合うための考え方) <input type="checkbox"/> I多様性 (いろいろある) <input type="checkbox"/> II相互性 (関わりあっている) <input type="checkbox"/> III有限性 (限りがある) <input type="checkbox"/> IV公平性 (一人一人を大切に) <input type="checkbox"/> V持続性 (力を合わせて) <input type="checkbox"/> VI責任感 (責任をもって)
活動の概要 ○対象 高等部 1年 25名 ○実施日 6年 ○月 ○日 (○) ○主な活動場所 体育館、校内 ○内容 【講義】 ・災害の種類、避難の仕方について知る 【体験】 ・本校内の防災設備・避難経路の確認・避難体験	地域の協働者・講師等 (氏名) 浜田太郎 (連絡先) △△-△△△△ (活動写真等) ・撮影 可・不可・要相談 ・掲載 可・不可・要相談
準備・打ち合わせ等計画 ○月○日 15:50～16:50 月 日 ～ 月 日 ～ ふりかえり	打ち合わせ内容 (ここに内容を記入) (ここに内容を記入) 活動の様子 (成果と課題等) 知力 A・B・C (ここに活動の様子を記入) ふるまい A・B・C (ここに活動の様子を記入) 達成・協働・貢献力 A・B・C (ここに活動の様子を記入) その他

校長	教頭	教務	生活	図書	主事	地域連携窓口	担任
						小 中 高	
R6地域とかかわる学習連携シート (様式②) 担当者氏名 松田文恵 学部 年 組・班・グループ 単元・題材名 防災について学ぼう～災害への備えと地域の取組について～ 学年 1年全体 単元の主題 SDGs 11 住み続けられる街づくりを 単元の目標 ・学校や地域の災害への備えや被害をなくすための道具、設備、取組について知る。 ・地域の安全を守るための人々の協力や関係機関との連携等について知る。 ・学びを通して災害に対して備えたり、安全に避難することの大切さに気づき、家庭や学校で自分にできることに取り組もうとする意欲を高める。 この活動で子どもたちに身に付けてほしい力 (○印) ○ 知力 ○ ふるまい ○ 達成力 ○ 協働力 貢献力 (補足の内容があれば記載する。)							
活動の概要 ○対象 高等部 1年 25名 ○実施日 6年 ○月 ○日 (○) ○主な活動場所 体育館、校内 ○内容 【講義】 ・災害の種類、避難の仕方について知る 【体験】 ・本校内の防災設備・避難経路の確認・避難体験				地域連携者 (氏名) 浜田太郎 (連絡先) △△-△△△△ (活動写真等) ・撮影 可・不可・要相談 ・掲載 可・不可・要相談			
準備・打ち合わせ等計画 ○月○日 15:50～16:50 月 日 ～ 月 日 ～				内容 達成度 (3段階) 活動の様子 (成果と課題等) 知力 A・B・C (ここに活動の様子を記入) ふるまい A・B・C (ここに活動の様子を記入) 達成・協働・貢献力 A・B・C (ここに活動の様子を記入) その他			

〇〇学部〇年〇組 生活単元学習指導案

日時: 指導者: 場所:

- 単元名
- 児童・生徒が向き合う単元の主題

単元に取り組む中で 児童生徒が向き合っていく 主題・テーマ

例)「子どもも食べやすい」という視点から地域の食材の良さを探り、発信をしよう!

例)どのように発信すれば、多くの人に浜田の魅力を知ってもらえるか?

☆「単元において 児童生徒が何を学び、何を考えてほしいか?」
教科の取り扱い等を検討する過程で、このことがふれられない
思考判断表現(または深い学び)の視点から主題を書く。
- 単元の目標

※単元全体を通して目指す児童生徒の姿・この単元を通して児童生徒に付けたい力は?
※育成を目指す3つの資質・能力にとらわれず設定してよい。

※浜田養護学校で育てたい資質能力
(知力・ふるまい・達成力・協働力・貢献力)のどれを押さえるか
目標横に()で記載。

浜田養護学校のESDカテゴリー	✓
自然を守ろう	
みんなが住みやすい町にしよう	
伝統文化を受け継ごう	

持続可能な社会づくりの模範概念	✓
I多様性 (いろいろある)	
II相互性 (関わりあっている)	
III有限性 (限りがある)	
IV公平性 (一人一人を大切に)	
V持続性 (力を合わせて)	
VI責任感 (責任をもって)	

ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度	✓
①批判的に考える力	
②未来像を予測して計画を立てる力	
③多面的・総合的に考える力	
④コミュニケーションを行う力	
⑤他者と協力をする態度	
⑥つながりを尊重する態度	
⑦通って参加する態度	

地域との活動を計画するときに作成し、
地域連携センターに提出する様式

研究仮説～ 児童生徒の気づきや思考を見える化・・・

指導案展開部分で・・・

*ここまでを A4 2枚にまとめる

(3) 展開 **A3 也可**

時間	学習活動 <行動>	支援				主題に向かう 児童・生徒の思考 (行動の背景)
		児童生徒が本時の目標を 達成のために必要な支援を 必ず記載する				トマトの 良い調理 方法はな かな？
		どの授業にも書くようなスタンダードな 支援は、省力してもよい。 ただし、自立活動の視点から 個別に行う支援は 記載するほうが望ましい。				幼い子ど もが好み な味はな かな？

深い学びを支えるために・・・

展開の吹き出しに、
想定される あるいは 期待したい
思考する姿を書く

【赤枠部分について】

- 想定または期待したい思考する姿に対する支援になっているか
- 目標達成のための支援になっているか

・・・など、支援と、主題に向かう児童・生徒の思考を相互に確認することで、授業づくりが整理しやすいです。

研究の方法

1. 各学部、寄宿舍を実践グループとする。

☆小学部グループ（低学年・高学年） ☆中学部グループ

☆高等部グループ（高1・総合コース・職業コース） ☆寄宿舍グループ

2. 毎月1回程度学部研究会・舎研会を設け、グループで実践について協議する。 ※次頁に補足あり

3. 各学部においては、授業づくり・授業改善を目指した取り組みを行う。

☆実践1を行い、授業改善ののち実践2を行う。

☆密案による授業研究会を1回行う。

☆各学部・寄宿舍とも外部講師による指導助言を受ける。

4. 地域連携センター・学習支援部と連携しながら実践を進める。

☆地域とかかわる（連携協働）学習年間計画にもとづいた取り組みを行う。

5. 全校研究会において各学部・寄宿舍の実践の共有を図る。

研究の方法 2. について

☆児童生徒が思考を深めていくことができるように

- ① 各グループ研で実践1、実践2と指導案を用い、支援について協議を行う。
- ② 授業の展開の中で、教員がファシリテーターとなって、協働的な学びが充実するように検討する。